

築港釈迦院

港区探索

港合同の盟友組合である全港湾の組合事務所が入る港湾会館。その斜め向かいに真言宗のお寺、築港高野山釈迦院がある。もともと天保山運河の内陸側にあり、創建年は明治末期の一九一〇年。七四〇〇坪程の広大な敷地を有していた。大正時代から昭和初期にかけて同寺は大師信仰の中心地として栄え、東の四天王寺、西の築港高野山と呼ばれるほどであったという。戦争で宿坊が船出待ち

の軍隊の宿舎となり出征基地の本山となる。戦地から遺骨が戻った時は法要が行われた。一九四五年六月一日の大阪大空襲で全焼。一九五二年に現在地に移転・再建された。境内には焼けただれた菩薩像や墓、殉職した港湾労働者の碑などがあり、戦争の歴史を刻んでいる。またソ連の客船「プリアムーリ工号」の火災事故で犠牲となった人々を追悼するための銅像が二〇十一年まで安置されていた（老朽化により撤去。現在は同船が被災した大阪港の中央突堤の岸壁に像のパネルが入った石碑が設置されている）。



ちなみに今年初めの大相撲大阪場所では、稀勢の里が所属する田子の浦部屋の宿舎となっていたので、港区界隈は大騒ぎに。区役所まで動員しての加熱ぶりにちょっとイヤナ感じも……

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！